

平成23年4月1日

第 19 号

(年一回発行)

京都教育大学
附属京都小学校
東櫻同窓会

東櫻だより

〒603-8164

京都市北区紫野

東御所田町37

TEL

(075) 441-4166～7

発行人 千 玄室会長

題 字 千 玄室会長

印刷 中西印刷

—「同窓生のつどい」のお知らせと 「東櫻だより」を振り返る—





御 挨拶

東櫻同窓会会長 千 玄室

新年度を迎え、東櫻同窓会会員の皆様には、各方面にてご活躍のこと嬉しく存じております。

母校附属京都小学校が、附属京都中学校と共に「中小一貫教育」に取り組み、初等・中等・高等部それぞれに特質した教育を受ける環境が整った誇り高い学校であることは、誠に喜ばしく思います。同窓会もその流れに従い、小中同窓会統合検討委員会が立ち上がり、その在り方について検討が進められております。

思い起せば、明治三十年代に御所の東、東櫻町に附属小学校があったことに由来して、同窓会『東櫻会』が結成されたようです。そして私が会長に就任いたしましたのが昭和四十三年。初めの頃、木造の講堂で総会をし、その後に近所にあります弟の納屋嘉治の会社（淡交社）で懇親会をしていましたが、その頃が懐かしく思わ

れます。昭和五十七年の母校創立百周年では多くの同窓生がお集まり下さり、いろいろと記念行事をなすことが出来ました。これも執行役員の皆様の変わりないご尽力の御陰と有難く御礼申します。同窓会もそれを機に盛り上がりの機運の継続を期待し、京都ホテルで三年に一度開催することとなりました。また平成十一年以降は、四十・四十二歳代になられた同窓生が総会のお世話役となり、該当三学年を中心に毎回三百人前後の会員が出席されるようになりました。これからはどのような形で開催されるかは分かりませんが、多くの小中同窓会会員の懐かしく相集える場とし、また附属の為に協力して頂ければと、卒業生の人としてお願いいたすところであります。会員皆様の益々のご多幸ご健勝そしてご活躍を祈念いたしご挨拶いたします。



御 挨拶

東櫻同窓会副会長 堀場 雅夫

社会人になって昔を振り返った時、良かったなと思う第一番に浮かぶのは小中高時代のことです。特に小学校のことは鮮明な記憶があります。

京都では少子化が進んで母校が他校に吸収され、その歴史を閉じる学校が多い中、附属京都中学校は立派に存続しているのは、卒業生にとつてすごく有り難いことです。

少年時代、特に小学校は、私のように幼稚園に行っていない人間にとつては、初めて両親や兄弟と離れて、全く親交のなかった同年の人と長時間生活を共にするわけです。飛行機でいえば、パイロットの練習生が初めてソロ飛行をするようなもので、ドキドキものです。

今までの家庭内での家族とのコミュニケーションとは全く異なった相手との融和は大変なことで

す。もしその学校の雰囲気馴染めなければ、気の弱い子であれば登校拒否になりかねません。

幸い附属京都小学校では、人付き合いの決して良くない私でも一度も学校が嫌いになったこともなく六年間を過ごしました。受け持ちの先生や教生の先生に可愛がってもらい、多くの友人と友情を深めることもでき、今日の私があるといつも感謝しております。

この度小中同窓会の統合に向けた検討が議論されているところではございますが、同窓会のますますの発展を心より祈っております。





御挨拶

東櫻同窓会副会長 大倉 治彦



御挨拶

学校長 谷口 淳一

早いもので、附属京都小学校を卒業して今年で四十年になります。その間、長男と三男も附属にお世話になり、長男は既に大学生となり、三男は附属京都中学校に通っています。息子の在学中に育友会の役員を務めたり、同窓会の副会長に就任するなど、小学校へ行く機会が増えたのですが、昔と変わらない校舎の佇まいを見るたびに大変懐かしい思いにとらわれます。建物や設備はいつか新しいものに変えなければなりません。が、出来るだけ往年の雰囲気を残してほしいと思うのはOBのわがままでしょうか。

小中一貫教育への取組みも最終段階に入りつつあるようです。従来の六・三制ではなく、初等部（一～四年）、中等部（五～七年）、高等部（八～九年）の三部制となり、五・六年生はすでに旧中学校の校舎で授業を受けています。新町通りを跨ぐ連絡通路も実現間近と聞いています。育友会も数年前から小中合同となっており、われわれ同窓会も統合実現に向けて、いよいよ今年は具体的な動きがあることを期待しています。

今年は、三年に一度の同窓会総会が開かれます。一人でも多くの会員に参加頂いて盛大な会にしたいと思います。同窓会の後、学年毎の会が開かれることになると思いますが、卒業四十周年を迎えるわれわれ同期が集まって旧交を温めあうことを楽しみにしています。

東櫻同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

平素より本校教育活動にご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

この度、平成二十二年四月より前任の田岡文夫校長の後を受けまして本校校長として赴任致しました。その重責に身の引き締まる思いでございます。微力ではありますが、附属京都小中学校の新たな歩みに向かって少しでもお役にたてますよう努力して参りたいと存じます。

御存知かと思いますが、本校は小中一貫校になると共に、平成二十一年四月一日より文部科学省から「教育課程特例校」に指定され学習指導要領によらず、独自の小中一貫教育カリキュラム（四―三―二制）を編成し、教育を実施しています。一年生から四年生（初

等部）までが西エリア、五年生から七年生（中等部）、八年生から九年生（高等部）までが東エリアでそれぞれ授業を受けています。この九年間は人間形成においてとても大切な時期です。子ども達にはたくさん友達と触れ合い、可能性を伸ばしていつて欲しいと思います。

そして、この枠組みの中で子ども達が夢や希望を持ち、生涯にわたって自らの進路を主体的に切り拓いていく力を育めるよう教職員も力を合わせております。また、附属京都小中学校の特色を活かしながら大学と附属との連携をさらに密接にして、教員養成及び実践教育体制を強化していかねばならないと思っています。会員の皆様方にも、尚一層のご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

「同窓生のつどい」の開催に向けて

実行委員長 荒木 俊哉

六月二十五日(土) 午後四時半

から京都ホテルオークラ・暁雲の間に三年に一度の「同窓生のつどい」が開催されます。今回は昭和五十六年卒、五十七年卒、五十八年卒の三学年で実行委員会を務めさせて頂きます。幹事学年制になってから、五回目の開催となります。

前回の「東櫻同窓生のつどい」に同級生数名と昭和五十七年卒、五十八年卒の友人にも声を掛けて初めて出席いたしました。出席するにあたり、前幹事学年のアドバースを受け、各学年で同期会を開催し、まず名簿の充実を図ることから始めました。そして「東櫻同窓生のつどい」に参加すると、想像以上の規模と、そうそうたる諸先輩方を前にして身が引き締まる思いを感じ、幹事学年の先輩方が頑張っておられる様子を見て、次は自分達がやっている姿を想像す

ることすらできませんでした。

私達幹事学年の仕事は、まだ「東櫻同窓生のつどい」の熱気冷めやらぬ平成二十年七月六日、前幹事学年の反省会に参加するところから始まりました。まずは資料に加え、前幹事学年が体験した良かった点、課題点などを引き継ぐところからです。我々がすべきことは、「東櫻だより」第十八号、第十九号の発行と六月二十五日に行なわれる「同窓生のつどい」を企画、運営することです。「東櫻だより」については昭和五十八年卒の高橋良和君に編集委員長をお願いしたいへんお世話になりました。また広報委員会の大家素子さんは、大変お世話になりました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

これからは「同窓生のつどい」に向けて忙しくなります。人手も知恵も必要となります。幹事

学年の五十六年卒、五十七年卒、五十八年卒の皆様には、この場をお借りして、準備段階からの或いは当日だけでも結構ですでお手伝いをよろしくお願い致します。

今回の目玉として、卒業生で歌手の柱本めぐみさんをお願いし、「トワイライトコンサート」を開いて頂きます。柱本さんは幹事学年制をはじめて取られた年の幹事学年としても活躍されました。クラシックから現代音楽、またジャズ、ポップス、シャンソンなど、時代やジャンルにとらわれず様々な歌を得意とする歌手としての側面に加え、お寺の住職でもある柱本さんからは、バイタリティに溢れたコンサートをお聴かせいただけるかと楽しみにしております。

また今回もアンサンブル東櫻のメンバーによる女声コーラスのすばらしい歌声も披露して頂きます。日頃のレッスンの成果を聴かせて頂きます。今年で結成七年目に入られ、息のあった感動あるハーモニーを楽しみにしております。

さらに今回も恒例の福引き大会を予定しております。ぜひ出席頂

いて、賞品をゲットして下さい。またこの場をお借りして、賞品のご提供をお願い申し上げます。

もちろんおいしいお料理とお飲み物もご用意させて頂きます。また前述のイベントもご用意しておりますが、同窓生として、お世話になった先生方や同級生、先輩方、後輩達と笑い、語り合えるのが、この「同窓生のつどい」の一番の良さだと思えます。どうぞ多くの皆様にご参加頂いて楽しいひと時をお過ごし下さい。今回も土曜日の開催ですので、ご遠方からのご参加も期待しております。各学年の理事の方を中心にお友達をお誘い合わせ頂いて、大勢の皆様のご参加をお待ちしております。また次期幹事学年の昭和五十九年卒、六十年卒、六十一年卒の皆様。まずは同期会を開催し、皆で集って参加してください。附属京都小学校のすごさを実感できると思います。

六月二十五日京都ホテルオークラ・暁雲の間で皆様にお会いできることを願って、ご挨拶とさせて頂きます。

新しい出発点に立って

副校長 戸田 和樹

今年度の四月一日発行「職員室の小さな文学館」(私が週一回出している職員室通信 本校ホームページに掲載)第一号は、次のような文章から始まっている。

「この四月より、社会的に『附属京都小中学校』として教育活動を再出発させる。送別会に集まっ



た一〇〇人程の仕事仲間、新たな学校の創造という重責を担っている。施設を新たにする工事の資金は、およそ自前の持ち出しで、教育活動では費用がかからないように努力することを余儀なくされることだろう。初等部・中等部・高等部を連結して構造化された校務分掌は、一つの学校として機能するための産みの苦しみを味わうことになるだろう。そして、新たな可能性を求める具体的な行事や生徒活動では、試行錯誤を繰り返



さねばならないだろう。

しかし、困難は乗り越えるためにある。若返ったリーダーを核として、それぞれが求める教育の姿を探索することが、新しい学校創造を支えていくと思われる。」

その日から、七ヶ月が過ぎた。この間、私たちは、初めて経験する様々な試練と新たな多くの行事をこなしてきている。それは、過ぎてしまえば心地よい思い出となっではいるが、一つひとつを形にするための教職員や生徒、育友



会、教育振興会、同窓会など関係諸氏の労力と時間と工夫に、私は敬意を表したいと思う。それ程に、新しい学校を創造するということは大変なことなのである。

ここに、おおまかではあるがこの七ヶ月間の足跡を辿ってみようと思う。

五月七日(金)は、一年から九年までが西エリア体育館に集まり、開校以来初めての「全校対面式」が行われた。九年生が新一年生の手を引いて入場する姿に、新しい時代の到来が感じられた。



十月五日(火)は、スポーツフェスティバル「紫翔祭」が開催された。これまで、小学校と中学校が独自に行ってきた行事を東エリアグラウンドを主会場としながら、西エリア会場でも並行して初等部競技を行うという変則的な仕組みでの実施である。横のつながりを跳び越えて、縦のつながりを強調し、例えば、九年生と一年生、八年生と四年生というような組み合わせでの縦割競技が多く取り入れられた。



十一月二日(火)は、「つながりに重点をおいた学習活動」をテーマに教育実戦協議会が、ウィングス京都で開催された。すべての報告が舞台発表の形でなされ、生徒発表も交えて、本校独自の様々な「つながり」の姿を提案することが出来た。講師でお招きした安彦忠彦先生(早稲田大学)には、私たちの取り組みを整理していただくとともに、今後の学校の方向性についてもご示唆いただくことができた。



十一月十一日(木)には、昭和十九年卒業の同窓生の皆さんが本校を訪ねてこられた。四年生が学校案内を行い、昔の学校の様子についての話をおうかがいした。十二月二日(水)三日(木)は、附属フェスティバル「紫友祭」が、西エリア体育館を主会場として催された。舞台発表、展示、縁日、バザーなど多くの文化活動の実際を公開することが出来た。こうした行事と並行して、東エリア講堂の改修、西エリア南校舎

改修(多目的メディア教室)、新町通り連絡橋敷設への働きかけなど、多くの努力を今も積み重ねている。同窓会の皆様には、今後とも新しくなった母校を見守り続けていただきたいと切に願っている。



年次だより

昭和十二年卒

北陸や山陰に蟹の解禁と聞いて早速食卓を賑わした。

附属小学校の学生時代は父母も祖父の四人暮らしだったが一足の蟹をさばいて食卓を賑わした。

戦争が始って長い戦時下となりその間母も祖父も他界し、蟹をさせることも無くなった。終戦後、日を重ねてそれなりの平和を喜びながら新しい家族の顔ぶれで蟹をさせるようになった。

蟹を食べながらふと思った。同級生の消息も遠くなつてゆく。

「海兵も陸士も遠し蟹を食べ」

冬晴の一日久々に紫野辺りを散歩した。学生時代の北部の運動場は失せて立派な校舎となり、師範学校や第二教室もすっかり面影は消えていた。門前に立っていると守衛らしき人が出て来て不思議そうに私を眺めていた。

(梶山千鶴子)

昭和十三年卒

平成二十一年六月十二日、京都ブライトンホテル・螢にて、同窓会を開催した。参加者は井宮敏彦、小酒井英夫、伊達慶宗、山田明、杉山正直、西村明、青木英子、伊藤登久子、中村薫である。昨年より一名増したことは大変喜ばしい。また小酒井君が元気に顔を出してくれ誠に結構でした。伊達君は身体の具合が少し不調で奥さんに同伴で参加されました。色々と懐かしい話が出る中で亡くなられた納屋嘉治君や野村宰平君等の思い出話も出て今回も和やかに時間を過ごし来年の再会を約束し散会する。

(西村 明)

昭和十五年卒

附友会

今年は六月六日にフジタホテルで開催しました。卒業して約七十年、それでも十八名集まりました。

宴会の前に、同級生で京大名誉教授の河合氏から、専門の心臓病のお話を伺いました。歳のせい、色々と多様な質問がありました。次いで宴会に移り、懐旧談や近況報告など、話は連綿と尽きず、あつという間の三時間でした。私共は、もう来年のことなどとかやく言える歳ではないのですが、何とか次回の世話役を決め、再会を約して散会しました。

(森本皓昭)



平成21年度 附友会 (昭和15年卒者) 6月6日 於 ホテル フジタ 京都

昭和十六年卒

菊桜会

平成十九年の傘寿のクラス会ではこれがおしまいで次からは随時という事でした。平成二十一年に玉置日出夫様が秋の叙勲を受賞され、関東関西から相寄り日航プリンスホテルで祝宴を催しました。青木茂様が記念アルバムを作つて下さり、とても楽しい思い出のクラス会となりました。

(井上佳子)



■ 昭和十七年卒

午巳会

平成二十三年三月十日ホテル日航プリンセス京都に十七名が集った。東京、横浜、小田原、静岡、名古屋、大垣など遠方から懐かしい顔に出合うため心身共に元気な仲間だが、八十一、二才の年齢柄、話題は健康面に終始しがちだが、現在の乱世を如何にするか、どう消え去るか難しい話も出た集이었다。

(野村英男)



■ 昭和十八年卒

紫櫻会

平成二十二年十月三日(日)に烏丸京都ホテルに会員十六名(女子十名、男子六名)が東は横浜、西は岡山から遠路参加されました。

ホテルの昼食を食べながら、各自近況報告をして盛会でした。又、今後の会の在り方について意見が述べられました。

担任の泉美穂子先生は残念ながら体調不良で欠席されました。お見舞いの寄せ書きと出席者の集合



写真を送らせて頂くことにしました。

(近藤・上杉・本田・磯田)

■ 昭和十九年卒

我々の同期会は、毎年十一月十一日に開催されることになっています。今年の参加は二十八名でした。

今年は是非小学校の前に集まってい、当時の附属小学校生活を偲びたいとの希望で、十一時に小学校の前に集まりました。副校長の戸田先生のご配慮で、小学校四年生



の二クラスの子供の出迎えを受け、我々一人に三人ほどの生徒がついて、学校を隅々まで案内してくれました。われわれが一年生のときに新築された校舎は、外観は変わりませんが、細部は色々と変わっていました。最後は図書室に集まり、子供たちから当時の学校生活などについて色々と質問が出て、大変有意義な交流を持つことが出来ました。約一時間の交流を終え、懇親会場のタワーホテルに向かいました。本当に楽しい交流の時間でした。

(武居三郎)

■ 昭和二十一年卒

平成二十二年九月二十八日、喜寿記念の第十三回同窓会を渡月橋畔の料亭「嵐山熊彦」で開催。首都圏五人、関西他府県六人を含めて二十八人が参加。「近未来新幹線」「嵐山の松林の森林生態学」「我が国経済危機脱出への提言」など一線の専門家の話を含めて、全員の近況紹介、思ひ出話など、愉しい三時間が過ぎ、再会を約束して散会となりました。

(岡崎守男)

昭和二十二年卒 いぬい会

卒業後干支一巡＝六十周年記念同窓会を開催しました。六十年ぶりの校舎で、在校生の歓迎演奏や、副校長先生の歓迎挨拶に続き、在学当時の世相・流行語・封切映画・流行歌・ベストセラーなどの回顧プレゼンがありました。懐かしい学舎を背景に記念撮影の後は、有職料理の西陣魚新さんへ移り、「喜



寿祝い膳」による早目の仲間同士の相互祝宴を楽しみました。参加者三十五名の好成績！

(田崎 央)

昭和二十三年卒

附三会

附属京都小中学校スタートのニュースが耳新しい中、私達は発足当初より「附三会」として親交を深めて参りました。平成二十年の前回に続き、平成二十二年九月



十六日の昼、京都ブライhtonホテルにて開催。

小学校低学年で転校した旧友が六十五年振りに再会を果たせたり、三十六名が大いに盛り上がり、三十七人の希望をいただきました。次回は二年後、喜寿の集いを予定。

(野入省吾)

昭和二十四年卒

三回目の学年旅行をすることになりました。今までは、下呂とか御岳といった中部地方の温泉を巡ってきましたが、今回は神戸か



ら横浜を目指す「につぼん丸クルーズ」を計画しました。

少し物入りなので参加数が少ないかと心配していましたが、三十七人の希望をいただきました。船旅のすばらしさ満喫してまいります。

(松本京史・迫田恒夫)

昭和三十三年卒

あーちゃんが去って五年が過ぎました。彼女との出会いは、私が小二の編入生として附属に入った時でした。この時から高校を卒業するまで、かー子ちゃんと三人で毎朝通学したのです。高卒のアルバムには、なぜか三人が園芸部員として移っています。結婚の時三人が偶然に、一ヶ月おきにする事になり、記念として、同じ物をそれぞれに渡し合いました。今でも大切に持っています。

子連れでも旅行に行きました。が、週一回の体操教室に通うようになってからは、合う回数がどんどん増し、ゴルフに、花見に、飯盒炊さんにと、若い頃の様にごしました。山ちゃんを含め四人で、積立金をしては、大名旅行にも。



最初は六年は組のクラス会から始まりました。担任が山本薫先生

■昭和四十三年卒

(澤野かすみ)

行っても観光はせずに、食べて、温泉に入ってお喋りばかりして、本当に楽しかったです。
彼女が連絡なしに、体操教室を休んだ次の日、電話で「私、ガンやね。」この日から別れが始まりました。

■昭和五十八年卒

(土肥義徳)

だったので通称山ブー会でしたが、いつの間にか小中の合同同窓会となり、本年も祇園元奈古旅館で行いました。長い間幹事をしていますが我々も五十五歳となり、毎回昔話に花を咲かせています。同じ時代を過ごした仲間が集まるのは本当にいいですね。次回は二年後です。

今年開催される東櫻同窓生のつどいの幹事学年下っ端として同窓会を盛り上げるべく、プレ同窓会と称して平成二十一年十二月三十日、中学同級生の安全(旧姓島田)さんが女将をつとめる下鴨福助にて同窓会を開催しました。とりあえず友達の友達を通じて連絡を広げ、急な連絡、また年末の忙しい時にも関わらず、三十一名が集うことができました。で、幹事代表役の私が当日家族急病にてドタキャン。残念。写真で我慢。東櫻同窓生のつどいで皆様にお会いするのを楽しみにしております。

(高橋良和)



卒業生・恩師の表彰

平成二十一年、二十二年と、卒業生、恩師の方の叙勲等表彰が相次ぎました。ここにご紹介させていただきます。

◆平成二十一年度

奇しくも平成二十一年度は、小学校・中学校とも同じクラスの三

人が揃って叙勲されました。

柴田章平氏 昭和二十四年卒

瑞宝重光章 公正取引行政功労

(元公正取引委員会委員)

中村充男氏 昭和二十四年卒

瑞宝小綬章 保険衛生功労

(元社会保険神戸中央病院院長)

迫田恒夫先生 昭和二十四年卒

瑞宝双光章 教育功労

(元公立小校長)

昭和四十二年から平成元年までご勤務。

◆平成二十二年度

越後 均先生

瑞宝双光章 高齢者叙勲、昭和三十年から四十五年までご勤務。

音楽家教育に傾倒され、最後の二年間は教頭職を勤められました。

駕渕紹子氏 昭和十八年卒

瑞宝中授章 教育研究

(同志社女子大学名誉教授)

千 玄室氏 昭和十一年卒

京都府文化賞受賞

茶道文化の普及を通じて世界平和の実現に貢献。源氏物語千年紀の呼びかけ人。

「東櫻だより」を振り返る

「東櫻だより」も本号で十九号を数えます。現在の東櫻だよりの編集体制は、広報委員会のもと、「東櫻同窓生のつどい」担当幹事学年が編集委員会を組織しています。二十号を目前にして、母校も中学校との統合が完了し、附属京都小中学校として新しい歴史を刻み始めた今、現幹事団（昭和五十六年、五十七年、五十八年卒）の視点で、改めて「東櫻だより」を読み返し、その歴史を振り返ってみたいと思います。

創刊号

（昭和六十年六月一日発行）

昭和五十九年九月二日の東櫻同窓会理事会において、同窓会活動の活性化を目的として、財務・行事・名簿委員会とともに、同窓会誌の発行を主な仕事とする広報委員会が設置されました。その十一月から発行準備が始められ、翌昭和六十年三月十七日の常任理事会

において、会誌の名前が「東桜だより」と決定されました。

実は同窓会誌は昭和初期にも発行されていたようですが、この昭和六十年より、現在の体制による同窓会誌の発行が始まりました。創刊号の体裁は今と異なり、新聞様式でした。

創刊号ということもあり、全ての記事が新しい試みですが、千会長、宇津井学校長による御挨拶に続き、当時は母校百周年（昭和五十六年）直後であったこともあり、その記念事業の報告がなされました。昭和五十七年卒が六年生の時に百周年であったこと、また昭和五十八年卒が六年生の時に着任された学校長による御挨拶が掲載されているなど、実は現幹事団にとって、非常に懐かしい思いを感じる内容となっています。また、その後の東櫻だよりも中心的な記事となる「年次のたより」も始まりました。

第二号

残念ながら、同窓会にも小学校にも、第二号が残っていません。どなたかお持ちの方がおられましたら、同窓会までご一報いただければませんか？

第三号

（昭和六十二年六月一〇日発行）

表紙写真

新校舎完成航空写真



特集

- ・ 総会報告
- ・ 新校舎完成

特集の一つが昭和六十二年に開催された総会の報告です。初めて附属小学校の外で行われ、京都ホテル（現京都ホテルオークラ）に

において、四〇〇名を超える参加があったこと、また当時まで学年毎に行われていた同期会を如何に縦につなぐかが、この総会、同窓会開催の使命であったことが報告されています。まさに今年も開催される「同窓生のつどい」の原点がここにあります。総会の最年長は大正五年卒だったそうです。

「年次だより」は昭和二年卒から昭和六十年卒まで二十七学年が並び、現編集委員会の昭和五十六

「東櫻だより」のふしぎ

（その一）

「東櫻」か「東桜」か？

附属京都小学校同窓会の正式名称は「東櫻同窓会」であり、旧漢字体の「櫻」を用いています。ただ、東櫻だよりを振り返ってみますと、創刊号では「東桜」のみ使われており、第三号の会長挨拶の中で初めて「東櫻」と書かれているものの、全記事において「東櫻」と統一されたのは第八号からなのです。

年卒、五十八年卒の記事もありました。当時まだ高校生でした。今はもう四十です。時が経つのは早いですね・・・

さて、第三号より、新聞様式の体裁から、現在の横開き形式に変更されました。

■ 第四号

(平成元年六月一日発行)

表紙写真

小学校を中心とした航空写真



特集

- ・ 金木犀の香り
- ・ 体育館・総合活動館竣工

特集の一つとして、先達の業績を紹介する「金木犀の香り」が始まりました。第一号は、後の京都女子大学を設立した教育者でもあ

り歌人でもある九條武子さんでした。また総合活動館に関わる特集

では、二十台のコンピュータが導入され、コンピュータそのものの教育に加え、コンピュータを教科の学習に活用する教育機器の一つとして用いる当時の先進的な教育活動が紹介されています。

■ 第五号

(平成二年五月二〇日発行)

表紙写真

「夏草」三谷十糸子先生作



特集

- ・ 東櫻同窓生のつどいに向けて
- ・ 金木犀の香り (湯浅八郎先生)

当時の学校長は、長らく広報委員会委員長を務められ、「東櫻だより」の発展に多大な情熱を注いでいただいた松井榮一先生でした。

また、静岡、富士山、箱根への修学旅行の記事があり、現幹事団には懐かしい限りです。

■ 第六号

(平成三年十二月一日発行)

表紙写真

「鴛鴦」堀鐵山先生作



特集

- ・ 東櫻同窓生のつどいの報告

- ・ 金木犀の香り (村山槐多画伯)

創立記念日に開催される「附属祭」が紹介されています。発行時で七年目。本号の副校長先生による記事にもある附属フェスティバル「紫友祭」の前身でしょうか。

■ 第七号

(平成五年六月一日発行)

表紙写真

「富士」大田喜二郎先生作



特集

- ・ 母校創立百拾年記念特集
- ・ 同窓生活躍紹介

創立百拾年記念特集として、裏表紙に大正九年から昭和十四年までの小学校正門や、明治三十七年の卒業記念写真、創立百周年時の人文字航空写真までが掲載されています。幹事団の二学年は、百周年人文字のどこかに立っているはずです。

■ 第八号

(平成六年七月一日発行)

表紙写真

「櫻」大田喜一郎先生作



特集

- ・ 東櫻同窓生のつどいの報告
- ・ 金木犀の香り（大塚久雄先生）

「年次だより」に加えて、個人からのたよりである「会員通信」が始まりました。最近号の「同窓生点描」につながっています。

■ 第九号

(平成八年五月一日発行)

表紙写真

「谷間の白い樹」浜田省児先生作



特集

- ・ 母校創立の歴史と現状
- ・ 東櫻同窓生のつどいのお知らせ

特集では、母校誕生の地をたずね、京都師範学校内に創立された附属小学校があった京都守護職屋敷跡、また初めて附属小学校の校舎が建てられた東櫻町の様子が紹介されています。発行当時、その町角に「東櫻町」の表示のある昔

懐かしい仁丹の町名標があったようです。今も残っているか、探しに行ってみました（十七ページの「東櫻町近辺を散策」を参照）。また、京都中学校の創立五十周年記念事業に関する記事もあり、会誌を持たない中学校同窓会の広報にも利用されています。

■ 第十号

(平成九年十一月一日発行)

表紙写真

静止気象衛星「ひまわり」画像
受信システム等

特集

- ・ 東櫻同窓生のつどいの報告
- ・ 母校の教育研究への協力課題

平成八年六月に開催された「東櫻同窓生の集い」は、新装なった京都ホテルで約二百名が参加して開催されました。講演は現副会長でもある堀場雅夫氏（昭和十二年卒）でした。母校の教育研究では、附属小学校が実践していた「共生学習」などの先導的教育研究が、「総合学習」として全国的に展開する道を切り開いたことが紹介されています。

■ 第十一号

(平成十一年五月一日発行)

表紙写真

「おはようの像」山崎正義先生作



特集

- ・ 東櫻同窓生のつどいのお知らせ

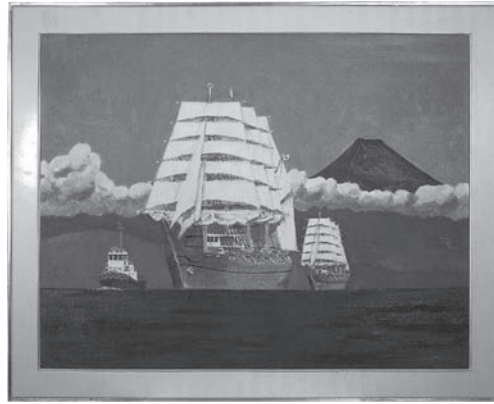
「東櫻同窓生のつどい」の運営体制が見直され、総会において幹事学年を設定し、そこが責任を持って運営するというシステムが取り入れられました。四十歳を中心とした三学年（昭和四十四年、四十五年、四十六年卒）が幹事学年として組織され、このシステムが現在まで続いています。

■第十二号

(平成十二年十二月二〇日発行)

表紙写真

「船出」柳原良平氏作



特集

- ・東櫻同窓生のつどいの報告
- ・「国境なき医師団」(貫戸朋子氏)

幹事学年体制が取られて初めての「東櫻同窓生のつどい」が開催され、出席者二百五十名のうち、幹事学年で八十名が集い、幹事学年制が同窓会の活性化に効果的であったことが紹介されています。また、次回幹事三学年が指名され、

つどい報告を特集とする「東櫻だより」の編集が仕事始めとなることも、今に続いています。

■第十三号

(平成十四年四月十五日発行)

表紙写真

母校百二十周年記念航空写真



特集

- ・母校創立百二十周年
- ・東櫻同窓生のつどいのお知らせ

母校が平成十四年に創立百二十周年を迎え、実施された記念事業が報告されました。また新企画として「恩師ご近況」が掲載されました。

また、新たに東櫻同窓会のホームページが立ち上げられたことも報告されています。

■第十四号

(平成十五年三月十八日発行)

表紙写真

最近の母校児童の様子

特集

- ・東櫻同窓生のつどいの報告

本号には「東櫻同窓会会則」が掲載されています。同窓会の目的を抜き出すと(第三条)、「会員が純真なる幼児の心にかえり、相互に親睦提携し、母校の発展に寄与すること」です。まずは、純真なる幼児の心にかえらないといけません。気が恥ずかしい感じがしますが、同窓生が集まると自然とその当時に戻れるものですよ。この頃母校では小中一貫教育に向けて検討が始まり、京都小学校、京都中学校の両副校長による小中連携の取組みが報告されています。

■第十五号

(平成十七年三月三十一日発行)

表紙写真

最近の母校正面玄関風景



特集

- ・東櫻同窓生のつどいのお知らせ
- ・同窓生点描

附属卒業生が様々な分野で活躍されている方を紹介するコーナーが始まりました。あれ?ここにも今年の同窓生のつどいで歌を披露していただく柱本さんが紹介されていますね。

■第十六号

(平成十八年三月二十一日発行)

表紙写真

「春・夏・秋・冬のレリーフ」
山崎正義先生作

特集

・東櫻同窓生のつどいの報告

本号では、京都師範学校時代の高浜臨海学舎の思い出が掲載されています。現幹事団の時代もありました。大遠泳へ望む気持ちは昔も今も同じですね。

また小中一貫教育「九年生義務教育学校」に向けた研究も三年目を終了し、小学校一年生から四年生までを初等部、小学校五年生から中学校一年生までを中等部、中学校二年生から三年生を高等部と区分した教科指導が始まりました。



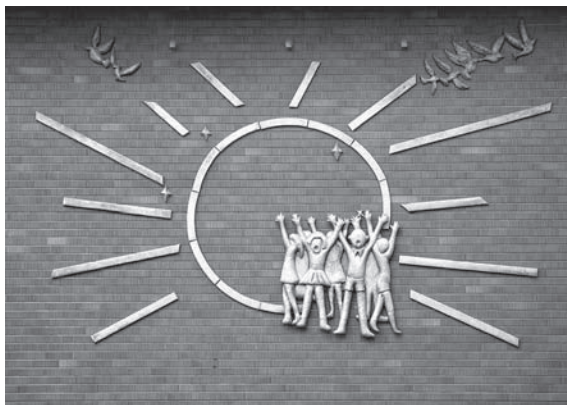
第十七号

(平成二十年三月十七日発行)

表紙写真

「太陽にはばたく」

山崎正義先生作



特集

・東櫻同窓生のつどいのお知らせ

「東櫻同窓生のつどい」への幹事団同年代の参加を高めようと、第十五号より続く同窓生点描の人選を、幹事学年で揃える編集がなされています。

「東櫻だより」のふしぎ

題字の変遷

(その二)

「東櫻だより」の顔である、毛筆による題字には、今まで何パターンあるかご存じでしょうか？現在の題字は六代目となります。初代は千会長によるもので、新聞様式であったことから、唯一の縦書題字です。二代目から五代目までは、その当時の学校長に揮毫いただいたものです。現在の六代目は第十二号より使用されており、幹事学年制による東櫻だより編集委員会が始まったのを期に、再び千会長に揮毫いただいたものです。



初代(創刊号)

東櫻だより

二代目(第三～四号): 山崎正義校長

東櫻だより

三代目(第五～九号): 松井榮一校長

東櫻だより

四代目(第十号): 丹後弘司校長

東櫻だより

五代目(第十一号): 和田 尚校長

東櫻だより

六代目(第十二号～): 千 玄室会長

東櫻同窓会の沿革

また母校からは、小学校、中学校で学校長が一人体制になるなど具体的な九年生義務教育学校としての取り組みが紹介されました。

■第十八号

(平成二十年三月十七日発行)

表紙写真

母校校舎屋上より小運動場を望む

特集

・東櫻同窓生のつどいの報告

平成二十年六月二十一日に京都ホテルオークラにおいて「東櫻同窓生のつどい」が、二百七十九名の参加を得、開催されました。次回幹事学年となる我々も参加し、母校の伝統と深い絆を再認識するとともに、その責任重大さに身が震える思いでした。この第十八号の編集が、我々の最初の仕事です。同窓生点描、恩師点描を我々幹事学年にゆかりの方に執筆いただき、より親しみのあるたよりを目指しました。

明治三十年代 附属小学校が東

櫻町（現御所東）にあったところ、同窓会が結成されたようである。

昭和十八年、太平洋戦争が激しくなり同窓会活動が中断する。

昭和四十二年に同窓会活動が復活、千 玄室氏（当時宗室氏）が会長に就任された。

復活後の同窓会活動

三年ごとに総会を木造の講堂で開催、学校の近くの淡交社で懇親会をもつ（故納屋嘉男副会長のご厚意で）といった営みが続いた。参加者も七十～百人程度と少なめであった。

昭和五十七年母校百周年記念式典・大パーティーを母校講堂・体育館で大々的に挙行、このイベントを契機に活動が活発化した。

百周年記念事業

正面玄関修景工事 「おはようの像」（山崎正義氏制作）の設置。子どもたちは正面玄関から登校す

るようになった。百周年記念誌の作成、築山の建設。記念祝賀会。

同窓会の組織・活動の改善

同窓会の広報紙（東櫻だより）の発刊を始めた。昭和六十年の創刊号以来、今号まで十九回、母校近況・同窓生の活躍ぶり等を伝えてきた。

会員名簿

昭和四十二年に会員名簿が刊行され、以後数年おきに九回、更新発行を続けたが、個人情報保護の立場から、二〇〇五年版をもって発行を取りやめている。

ホテルで総会を開催

百周年で多くの方を集まっていたき盛り上がった雰囲気大切にしよう、昭和六十二年から総会をホテルで開催することになった。

実行委員会制の採用

平成十一年以降、総会を四十～四十二歳になった学年でお世話いただく実行委員会方式を採用した。当該三学年が中心となっており、総会の準備、東櫻だよりの編集等を進めてもらっている。おかげで、毎回約三百人の出席をいただいている。今回の総会は第五次実行委員会が担当している。

母校に対する同窓会の寄付行為

昭和六十二年

京小山の家の建設（京北町余野）

平成十四年

大型水槽（ランチルーム入口に設置）

平成十五年

正面塔屋破風屋根飾りの修理

当同窓会は、平成二十三年六月の総会で活動に幕を下ろし、中学校の同窓会と合体する予定であります。今まで東櫻同窓会を支えてくださったすべての方に心よりお礼申し上げ、筆を置きます。

（文責…迫田恒夫）

東櫻町近辺を散策

東櫻同窓会の起源について、本誌またはホームページ等において度々語られてきましたが、改めて「東櫻だより」を振り返り、その名称の由来となった東櫻町を訪れたいとなりました。東櫻だより第九号の松井榮一先生による「母校誕生の地をたずねて」によると、荒神口通の北側に附属小学校教室が示されています。天気の良い朝方、ぶらり散策してきました。

その前に復習を。京都教育大学の母体の京都府師範学校は、明治九年六月二日京都御苑内旧准后里御殿を仮校舎として開校式が行われました。明治十二年十二月、師範学校は京都守護職屋敷跡に移転し、明治十五年、その校舎の中に附属小学校が創立されました。現在の京都府庁北側の下立売釜座です。明治二十一年四月、附属小学校は、師範学校の移転に伴って、上京区寺町通荒神口松蔭町に移りましたが、師範学校の校舎の中に於かれました。明治二十三年九月、

師範学校の北側にあった梅林を開拓して、ここに初めて附属小学校の校舎が新築されました。この場所が東櫻町です。その後明治三十二年、師範学校は現在の中学校の場所、師範学校附属校は現在の小学校の場所に新築移転しました。附属小学校同窓会は、発祥の地「東櫻」町を同窓会の名称としています。

鴨沂高等学校は長い歴史を感じさせる佇まいですが、附属小学校教室があったところはグラウンドになっており、少々昔を思い浮かべるのは苦勞します。そこで第九号に掲載されていた「東櫻町仁丹町名標」が残っているか、探しに行きました。探すのに手間取りましたが、まず今の字体の「東櫻町」の文字を見つけることができませんでした。その後散策を続けると、梨木神社のそばで、十年以上前の写真と同じ姿で「東櫻町」の場所を示しめす町名標を見つけることができました。



常任理事会・実行委員会報告

平成二十一年四月一二日以後の動きについて報告します。

・常任理事会

平成二十二年三月十七日に母校会議室において開催し、来年に迫った総会について議論するとともに、小中同窓会の統合について検討した。

平成二十二年十月十六日に母校

会議室において開催し、小中同窓会の統合検討状況について報告を受けるとともに、東櫻だより編集方針、同窓生のつどい企画について検討した。

・行事委員会

「同窓会のつどい」の実施に向け、実行委員会と密接に連絡を取り、準備を進めている。

・名簿委員会

平成二十二年四月発行予定の東

櫻だよりの発送に向け、各年次の理事さんあてに、現在把握している名簿をお届けして更新を進めている。

この東櫻だよりをご覧になった会員さんの知人で転居等された方をご存じの方は学年の理事さん、または学校（四四一・四一六）までお知らせいただくと幸いです。

・広報委員会

平成二十二年十月十六日を皮切りに、東櫻だより第十九号の編集作業が始まった。各学年にも記事作成を依頼し、平成二十三年四月発行に向け、準備を進めている。

・小中同窓会統合検討委員会

平成二十一年四月十八日、附属京都中学校において第一回検討委員会が開催され、以来小学校代表、中学校代表計十一名で、検討を進めてきました。検討委員会では、小学校と中学校の各同窓会が将来統合するという方向でコンセンサスが得られ、第二回検討委員会では、統合に向けての作業を進めています。

統合の可否・時期や会則の制定については、それぞれの同窓会の総会において承認を得た上で正式決定されることになります。

編集後記

次回「同窓生のつどい」幹事学年としての二回目の東櫻だよりの発行となります。一度経験しているとはいえ、なかなか思うように編集が進みませんが、「同窓生のつどい」も直前となり、身が引き締まる思いです。

今回は中学校同窓会との統合検討も大詰めとなっていることから、改めて東櫻同窓会および東櫻だよりを振り返ることを特集として企画いたしました。

最後にお忙しい中、寄稿して頂きました皆様、誠に有難うございました。

東櫻同窓会会計報告

自 平成20年 4月1日
至 平成23年 3月31日

(金額単位円)

【収入の部】

前回の繰越金	6,913,298
会費収入	4,099,520
受取利息	32,530
合計	11,045,348

【支出の部】

前回(H20.6.21)総会経費	413,621
東櫻だより作成費	1,010,382
絵画修理代寄贈費	1,000,000
委員会活動費	254,898
通信郵送費	129,310
事務用雑費	5,070
次回への繰越金	8,232,067
合計	11,045,348

会計担当 野村英男（昭和17年卒）

同窓生のつどいのご案内

三年に一度の同窓生のつどいを、下記の要項で行います。今回は、同窓生で歌手の柱本めぐみさんに、コンサートをお願いしています。

恩師の先生方や旧友との親交を暖め、思い出に残る一日として頂ければ、幸甚に存じます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

◆日 時／平成23年6月25日（土）

同窓会総会 午後3時より

懇親会 午後4時より

◆場 所／京都ホテルオークラ 4階 暁雲の間

京都市中京区河原町御池東北角 電話 (075) 211-5111

◆式次第／ ・同窓会総会

・懇親会

ートワイライトコンサート

出演：柱本 めぐみ（ソプラノ）

松園 洋二 （ピアノ）

ーコーラス（アンサンブル東櫻）

ー福引きなど



◆会 費／一 般 10,000 円

敬 老 会 費 7,000 円（昭和20年3月以前に卒業された方）

大学生以下 7,000 円

※ご出席の方は同封のはがき（出席回答票）にてお知らせください。

準備の都合上、5月22日（日）までにご投函頂きますようお願い申し上げます。